

## 山々を彩る 黄金の実



県内随一のゆず生産地である上之保地域で、ゆずの収穫が行われました。同地域のゆずは無農薬で育てられており、かみのほゆず生産組合加盟農家と一般家庭合わせて約320戸が栽培に携わっています。今年は豊作で、地域全体で約35トンの収

穫を見込んでいます。収穫されたゆずは選別、出荷され、加工食品の材料や和菓子、ジュースなどになります。また、上之保温泉ほほえみの湯では、地元産のゆずを使ったゆず風呂が、内風呂で12月29日(火)まで営業日は毎日行われています。

# あんな事、こんな事



## 放水 始めー！

11月8日、中濃連合消防協会消防演習が市役所駐車場で開催され、関市と美濃市の消防団員や中濃消防組合職員など約200人が放水訓練や応急救護訓練などを行いました。また、今年8月に雨天中止となった岐阜県消防操法大会(飛騨市)に出場する予定であった関市消防団田原分団、美濃市消防団美濃分団による消防操法が披露されました。

## 地域の力でまちを守る

関市と関市少年補導員連絡協議会から成る青色回転灯自主防犯パトロール団体「関市」の出発式が10月23日、市役所で行われました。「関市」は市内の自主防犯パトロール団体としては3団体目になります。「関市」を代表して関市少年補導員連絡協議会の小鞠満雄会長の宣誓の後、各団体は自主防犯パトロールカーに乗り込み、関係者に見送られて出発しました。





## 世界がもし70人だったら

瀬尻小学校で11月9日、世界平和アピール七人委員会の委員で、『世界がもし100人の村だったら』の著者の池田香代子さんによる環境をテーマにした講演会が開かれ、全校児童457人が聴講しました。講演では6年生70人が前に出て、みかんが70人どのように配られるかに例えて、世界の食糧問題をわかりやすく説明されました。

## 音楽で関の魅力を発信

11月1日、市役所芝生広場で「第4回わかさまつり」が開催され、市民をはじめ多くの来場者でにぎわいました。今回は会場内に設けられた2つのステージでバンドライブが行われ、「三叉路」や「ハナイコウヘイ」ほか、関出身、関につながるバンドが多数出演しました。午後はいよいよの雨になりましたが、ステージ前には多くの来場者が集まって演奏を聴いていました。



## 森林と暮らしと地球

洞戸中学校で11月6日、広島県のアサヒビール(株)アサヒの森環境保全事務所による「森のはたらき」についての出前講座が行われ、同校1年生が生活の中の森の役割と環境について学びました。木製品と暮らしとの関係や、森林が温暖化防止に役立つことなどを学習し、最後に絵馬の形をしたオリジナル温度計を作りました。

## 刃物に感謝

使われなくなった刃物を供養する刃物供養祭が11月8日、関鍛冶伝承館で行われ、全国から回収された包丁やハサミ、ナイフなど約35,000本が敷地内にある「刃物塚」の前で供養されました。回収された刃物のうち、ほとんど未使用のものは災害時の支援物資として備蓄されるほか、残りは製鋼業者に送られ、溶融されて新たな鋼材として再利用されます。



## こぼれ話



今、一番気になることといえば、新型インフルエンザ。うちの子どもたちも熱が出る度に「いよいよ、かかった?」と大慌てでかかりつけのお医者さんに連れて行き、保育園やお友達にも連絡したり、家の中でも一日中マスクを着けさせたりしています。子どもの通う保育園でも拡大防止のために園ではマスクを着用するように指導していただいています。とはいうものの、子どもはマスクが嫌い。まあ、大人の私でもどうもマスクは苦手で、一日中着けている

のはちょっとしんどいのですが、子どもの手前、しっかりと着用しています。面倒臭がる子どもたちに何とか毎日マスクをさせるために、マスクにイラストを手描きしたりしているのですが、これがまた結構難しく大変です。アニメのキャラクターとかを描いてくれとせがまれるのですが、布地ということもあり(言い訳ですが)微妙な絵になってしまい、「こんなのイヤ!」と逆効果になってしまうことも。それでもなんとか毎日マスクをして登園してくれませう。早くマスクをとって元気に遊ばせてやれる日が来ることを願います。